

観賞温室第2室 企画展示

- 9月9日(水)～11月15日(日)
「ハーブ展 くらしの中のハーブ」
・第1部 9月9日(水)～10月12日(月・祝)
「香りの生活」
・第2部 10月15日(水)～11月15日(日)
「健康と植物」
- 11月18日(水)～12月26日(土)
「クリスマス展」

観賞温室第3室 住宅内展示

- 10月14日(水)～11月1日(日)
「植物園に集うアーティスト展」 出展: 県内アーティスト
- 11月3日(火)～11月23日(月・祝)
「ハーブアラカルト」 出展: ジャパンハーブソサエティー 新潟支部
- 11月25日(水)～12月6日(日)
「精油・ポプリの文化に親しもう!」 出展: HATSUME
- 12月8日(火)～12月26日(土)
「クリスマスフラワーデザイン」 出展: フラワースクール花舞

観賞温室第3室 特別展示

- 10月下旬～11月中旬
「大文字草展」
- 11月3日(火・祝)～11月15日(日)
「キク展」 出展: 田辺政一
- 11月10日(火)～11月15日(日)
「新潟県花いっぱいコンクール入賞団体写真作品展」
出展: あしたの新潟県を創る運動協会

イベント

開園記念日温室入館無料デー ●11月29日(日)

★皆様からの日頃のご愛顧に感謝し、どなたでも温室入館料が無料になります。

クリスマス夜間開園 ●12月23日(水・祝)・24日(木)

★温室開館時間を19:30まで延長(入館締切19:00)

●観賞温室利用案内

開館 / 9:30～16:30(入館締切16:00)
入館料 / 大人600円、シルバー(65歳以上)500円、高校生・学生300円(要学生証提示)
小中学生100円 ※土日祝日は小中学生の入館料無料

●観賞温室開館カレンダー(■休館日)

10 October							11 November							12 December						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	1	2	3	・	1	2	3	4	5	6	7	・	・	1	2	3	4	5
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26
25	26	27	28	29	30	31	29	30	・	・	・	・	・	27	28	29	30	31	・	・

●交通アクセス ※駐車場無料(350台収容)

高速道路 / 磐越自動車道新潟ICから国道403号三条・加茂方面へ約15分
一般道路 / (新潟方面から) 国道49号茅野山ICから国道403号経由約20分
J R / 信越線古津駅から徒歩約25分
バス / 区バス: 新潟駅東口から「新潟駅西口」行き「美術館・植物園前」下車徒歩約1分
新潟交通: 新潟駅東口から「矢代田」経由白根・湯東営業所」行き「新潟美術館入口」下車徒歩約10分

花と緑の教室

※会場(または集合場所)「花と緑の情報センター2階 研修室」
※要申込(開催日の1カ月前から電話受付)

- 10月7日(水)13:30～15:00
「植物園花散歩⑥」
定員:15名 / 参加費:300円 / 講師: 林 寛子(当園職員)
- 10月11日(日)13:30～15:00
植物学講座「植物バイオテクノロジー」
定員:30名 / 参加費:300円
講師: 中野優(新潟大学農学部農業生産科学科准教授)
- 10月25日(日)10:00～11:30
ハーブ教室「香りのオブジェ
モイスト・ポプリ作り(ハーブティー付き)」
定員:15名 / 参加費:1,000円
講師: ジャパンハーブソサエティー新潟支部
- 11月8日(日)13:30～15:00
植物学講座「針葉樹ー5つのふしぎ」
定員:30名 / 参加費:300円 / 講師: 森田竜義(新潟大学名誉教授)
- 11月11日(水)13:30～15:00
「植物園花散歩⑦」
定員:15名 / 参加費:300円 / 講師: 倉重祐二(当園副園長)
- 12月6日(日)13:30～15:00
「クリスマスの寄せ植え」
定員:15名 / 参加費:2,300円
講師: ござんだいら あやこ(みどりデザイン研究所)
- 12月9日(水)13:30～15:30
「植物園花散歩⑧」
定員:15名 / 参加費:300円 / 講師: 村田亜希子(当園職員)
- 12月13日(日)10:00～11:30
「寄せ植え Xmasリース」
定員:15名 / 参加費:2,300円 / 講師: しばいひろこ(風花*kazahana)
- 12月13日(日)13:30～15:00
「クリスマスリースづくり」
定員:15名 / 参加費:2,000円 / 講師: 柳舎道子(Plink&Plonk)
- 12月13日(日)13:30～15:00
植物学講座「雑草はなぜ生えるのか?」
定員:30名 / 参加費:300円 / 講師: 森田竜義(新潟大学名誉教授)
- 12月20日(日)13:30～15:00
「ミニ門松づくり」
定員:10名 / 参加費:1,000円 / 講師: 田中良明(当園職員)



新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地
TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410
Eメール botanical@greenery-niigata.or.jp
ホームページ http://botanical.greenery-niigata.or.jp/
指定管理者 国際総合学園・都市緑花センターグループ



植物油インキで印刷しています

新潟県立植物園

植物園だより



富樫信平画 荒川町産 S62.09.18

ハッカ

Mentha arvensis var. *piperascens*
(syn. *Mentha canadensis*)

〈シソ科〉

ハッカは全草にメントール等の成分を多量に含み、ハッカ脳やハッカ油の原料となる植物で、香料や医薬品として広く使われている。

野生のものは湿地を好み、湿原や田の畔、小川の岸などにやや群生する多年草で、地中浅く走茎(ランナー)を出して繁殖する。

葉は短い葉柄があり、葉身2～8cm、幅1～3cm、こすると良い香りがある。花は8～10月頃茎の上部葉腋に輪状花序をつくり淡紅紫色の小花を多数つける。

解説: 富樫信平(抜粋)

観賞温室第2室 企画展示

ハーブ展

くらしの中のハーブ

第1部「香り与生活」

平成27年9|9(水)–10|12(月祝)

第2部「健康と植物」

平成27年10|14(水)–11|15(日)

人間の生活は植物とのかかわりが深く、なかでもハーブは、料理、薬用や香料など多様な用途で古くから利用され、これまで伝えられてきた植物のグループです。

今回のハーブ展では、第1部は、料理や化粧品などに香りが利用されるハーブ、第2部は、薬として用いられてきた植物に焦点をあて、特に私たち日本人の身近にある種類を中心に紹介します。

メイン会場には、季節の植物とハーブをふんだんにつakai、ボリュームあるハーブガーデンを創出します。ハーブの種類や効果を知ったり、実物に触れて香りを感じたりしていただけますので、この機会に、お好みのハーブを見つけてみてはいかがでしょうか。



クリスマスといえは皆さんは何を思い浮かべるでしょう、サンタ、トナカイ、クリスマスツリー、イルミネーション、リース、キャンドル、パーティー、クリスマスソング、豪華な料理、赤と緑と白色などの装飾でしょうか。

今年の植物園のクリスマスは、「ガーデンクリスマス」がテーマ。3mを超える6本のコニファーを使ったクリスマスツリーを中心として、この季節のおなじみの植物であるポインセチアやシクラメン、エリカ、デンマークカクタスなどさまざまな草花で美しく装飾したクリスマスガーデンをゆっくりとお楽しみください。

12月23日、24日の夜間開園時には、イルミネーションが展示会場と熱帯ドーム温室で幻想的に光り輝きます。寒い冬、クリスマス色に飾られた植物園を家族やカップルでお楽しみください。花に囲まれた冬の植物園の華やかな装飾は、寒い季節に心も少し暖かく華やかな気持ちに変えてくれることでしょう。展示期間中、11月29日(日)は植物園の開園記念日。温室入館料が特別に無料です！是非、ご家族でクリスマス植物園をお楽しみ下さい。

観賞温室第2室 企画展示

クリスマス展

～植物園のガーデンクリスマス～

平成27年11|18(水)–12|26(土)

園内ウォッチング<温室>

●見るタイミングが難しい幻想的なネッタイスイレン

熱帯植物ドーム内の池にパラグアイオニバスといっしょに植えられて生活をしているネッタイスイレン(熱帯性のスイレン)。普段、皆さんが外の池で目にする温帯性のスイレンとは少し違う特徴があります。それは、温帯性は花が水面に浮かぶように咲くのにに対して、ネッタイスイレンは水面よりも上に茎を突き出した状態で花が咲きます。

その他にも当園のネッタイスイレンは夜に咲く種類ですので、温室が開館する朝9時30分頃には花が閉じていたり、閉じかけだったりするので、夏の夜間開園以外はなかなか開いている姿を見ることができません。花はすごく綺麗なのにもったいなくて、少しでも多くの方に見ていただきたいという気持ちになります。しかし、天気がすぐれず暗い日に開館と同時にご入館されますと、まだ花が開いている姿をご覧いただける場合もあります。ぜひ、そんなときを狙ってご来館されるのもおすすめです。(桐生綾香)



ネッタイスイレン



天気の良い日の昼間には花は閉じている



天気の悪い日は、温室開館したら花が開いているかもしれない

園内ウォッチング<園地>

秋になると園内で拾ったどんぐりを持ってはしゃいでいる子供たちを見かけます。どんぐりと呼ばれる堅果をつけるのはブナ科のブナ属、コナラ属、クリ属、シイ属、マテバシイ属などの樹木です。園内の「にいがた自然園」には、ナラ属コナラ亜科のミズナラ(*Quercus crispula*)、コナラ(*Q. serrata*)、クヌギ(*Q. acutissima*)、アベマキ(*Q. variabilis*)など落葉広葉樹が多く植栽されています。また、園内の所々に植えられたアカガシ亜属のシラカシ(*Q. myrsinaefolia*)、アカガシ(*Q. acuta*)、アラカシ(*Q. glauca*)、ウラジロガシ(*Q. salicina*)や、シイ属のスタジイ(*Castanopsis sieboldii*)などの常緑広葉樹がどんぐり

をつけます。この他にも、池側の斜面にコナラ亜属のカシワ(*Q. dentata*)が3株、ボタン園の中にウバメガシ(*Q. phillyraeoides*)の生垣があり、それぞれに特徴を持った大小さまざまなどんぐりをつけています。

10月中旬になると「さくらの山」が赤く紅葉を始めます。園路わきに注意してください。植栽したばかりで、まだ大きくありませんが、春以外にも秋にも咲く(二期咲)のジュウガツザクラ、'フユザクラ'(*Cerasus x parvifolia* 'Fuyu-zakura')、'オモイガワ'(*C. x subhirtella* 'Omoigawa')、'シキザクラ'(*C. x subhirtella* 'Semperflorens')の花を見ることが出来ます。



どんぐりをつけたコナラ



クヌギのどんぐり



スタジイのどんぐり



美しく広葉したサクラ



二期咲きの'ジュウガツザクラ' (*Cerasus x subhirtella* 'Autumnalis')



上:無料休憩所としても利用できるレストラン
左:ハンバーグがメインのランチセットB、牛丼(サラダとコーヒー付き)
下:お子様カレーセット



NEWS 1 観賞温室内無料入館エリアに レストランオープン!

しばらく営業を休止していましたが、皆様からのご要望にこたえて、7月16日より観賞温室内にレストランをオープンしました。

営業は毎週水曜日から日曜日の11:30~15:00(ラストオーダー 14:30)*。メニューは、ランチセットA(唐揚げ)、ランチセットB(ハンバーグ)、カレーライス、牛丼、お子様カレーセット(スープ、フライドポテト付き)です。お子様カレーセット以外のメニューはスープ、サラダ付きです。この他に、ホットコーヒー、アイスクリームもあります。

レストランは温室を入ったところの入館券売場の奥にあり、ご利用にあたっては温室入館料は必要ありません。また、無料休憩コーナーとの兼用スペースとなっていますので、レストランの営業時間以外にもご利用いただけます。飲み物やお菓子、冷凍食品など自動販売機もあり、お弁当の持込みもできますので、お気軽にご利用ください。

(村田亜希子)

*臨時休業、営業がありますので、ご利用の際は植物園までお問い合わせください(電話0250-24-6465)。

NEWS 2 にいがたGREENフェスタ2015

来る10月17日(土)・18日(日)の2日間、(公財)新潟県都市緑花センターの設立25周年を記念したイベントを植物園で開催します。

「スゴすぎる植物たち!生活の全てを支える限りないチカラ。ここで出会えます。」をコンセプトに、自然や植物に親しめるイベントが盛りだくさん。

特別企画として、開催2日目の18日(日)に、第一線で活躍されているフラワーアーティスト、ニコライ・バーグマンさんの講演とパフォーマンス、また「趣味の園芸」でお馴染みの園芸研究家 矢澤秀成さんと、ナビゲーターをつとめる新潟出身の三上真史さんをお招きしてトークショーを開催します。

どなたでも楽しめる2日間をぜひお見逃しなく。皆様でお楽しみください。

(大谷史絵・新潟県都市緑花センター緑花推進課)



ニコライ・バーグマン Nicolai Bergmannさんによる記念講演とデモンストレーション



趣味の園芸ナビゲーターの三上真史さんと園芸研究家、矢澤秀成さんのトークショーも開催



完成した日本産水草水槽



日本産水草水槽の植栽
ガラス越しに無線で指示を出す天野氏

NEWS 3 天野氏が手がけた 水中庭園の水草水槽

今年の8月4日に新潟県出身で、写真家であると共にネイチャーアクアリウムと呼ばれる水草の展示手法を提言した天野尚さん(株アクアデザインアノ)が亡くなりました。

ネイチャーアクアリウムとは、水槽の中に自然の美しさを表現すると共に、水草と魚、エビなどの動物や微生物を共存させ、一つの生態系を織り成した展示手法です。天野氏の技術は国内外から高く評価され、近年では東京のすみだ水族館やポルトガルのリスボン水族館の植栽も手掛けられました。

氏は、アマゾンなどの大自然に自ら出向き、その風景を水槽に取り入れ、見る人を圧倒する独自の美を生み出したことでも有名です。当園の観賞温室第2室水中庭園にある日本産水草水槽は2003年に、東南アジア産水草水槽は2011年に天野氏によりレイアウトされたもので、共に長い年月が経過していますが、現在でも美しい姿が保たれています。皆様も是非、美しい水景をご覧くださいませ。

(久原 泰雅)



記録をとりながらさし穂を採取

さし木作業

ミスト装置を使って発根させる

NEWS 4 ユキツバキの品種保存

新潟県の本木であるユキツバキは多雪地に適応した植物として知られ、県の本木としても指定されているように雪国新潟を代表するにふさわしい樹木と言えます。

故・萩屋薫(新潟大学名誉教授)や石澤進(元新潟大学教授・現積雪地域植物研究所)は、ユキツバキ、またユキツバキとヤブツバキの自然交配種とされているユキバツツバキのさまざまな変異品を収集し、これらは新潟大学、鳥屋野潟公園などに保存されていました。

当園では、新潟にゆかりの深いこれらの貴重な品種の保全を図るため、コレクションの充実を図っています。この度は「新潟県花つばき協会」の田中秀明会長にご協力いただき、鳥屋野潟公園撞木地区に植栽されている120株からの挿し木を行いました。これらの中には、白花の品種「寂光」や千重咲きの「越の乙女」など、品種名がつけられている観賞価値の高い品種が数多く含まれます。現在は植物園の栽培施設で繁殖、栽培しており、5年後を目標に園地への植栽を予定しています。

(久原泰雄)

- 記念講演・デモンストレーション
10月18日(日)11:00~12:00
ニコライ・バーグマン(フラワーアーティスト)

- ガーデントークショー
10月18日(日)13:30~15:00
三上真史(俳優・趣味の園芸メインナビゲーター)
矢澤秀成(園芸研究家・趣味の園芸講師)

イベント

- と【撮】っても楽しい写真教室
(定員20名。9月28日より事前申し込み)
- 植物クラフト体験・ウォーターボール・
サクラ手形アート制作・秋葉丘陵探検隊・
親子でネイチャーゲームなど
(当日直接会場で申し込み受付)
- 花の販売、キッチンカーでの飲食販売など

- ◆会場:園地(入場無料エリア)
- ◆お問い合わせ:教室のお申し込み
公益財団法人 新潟県都市緑花センター
電話025-257-8711
- ◆詳しいスケジュールはホームページをご覧ください。

にいがたGREENフェスタ

検索

新潟の植物

エノコログサ

Setaris viridis



エノコログサ(左上)とアキノエノコログサ(左下)

誰もが知っている秋の草にブラシのような特徴的な花序を持つエノコログサの仲間がある。関西では俗称の「猫じゃらし」のほうを通りが良いらしい。秋の草のように思われているが、エノコログサ(*Setaris viridis*)などは7月に入ると早々と花序を見せる。

エノコログサの仲間には在来種のアキノエノコログサ(*S. faberi*)、コツブキンエノコロ(*S. pallidifusca*)、早い時代に渡来した史前帰化植物のエノコログサ、キンエノコロ(*S. glauca*)、帰化植物のフシネキンエノコロ(*S. gracilis*)、ザラツキエノコログサ(*S. verticillata*)に分けられる。

園内にも数種のエノコログサの仲間が生えている。アキノエノコログサは大型で葉の表面に毛が生えているため同定し易く、これに似たエノコログサは出穂が早く小型で小花も小さく葉に毛が無いなどの特徴から区別し易いが、キンエノコロとコツブキンエノコロの同定が難しい。

観察していると、数年前から園内、園外を問わず金色の長細い花序を持つフシネキンエノコロが増えている。

(田中良明)



エノコログサ



アキノエノコログサ

NHK新潟ラジオセンター 「朝の随想」セレクション

なぜキクを食べるのか (2014年12月15日放送)

キクは、日本を代表する植物の一つですが、実は中国大陸で6世紀頃に交配してできた種類で、8世紀、奈良時代に薬用植物として日本に渡ってきたと言われます。他のキクと区別するために、イエギクと呼ばれますが、実は食用ギクも同じ種類なのです。

キクは、最初は上流階級に広まりました。平安時代には、中国の故事にちなんで、旧暦の9月9日の重陽の節、菊の節句です。長寿や邪気を払うためにキクの花を浮かべたお酒を飲む、菊の宴がはじまりました。花札の9月のキクと盃は、長寿を願うキクのお酒なのでしょうね。

室町時代から江戸時代には観賞用に改良されて、栽培も広がりました。品評会や即売会も行なわれ、文化年間に江戸ではじまった菊人形、数々のキクの専門書の出版など、身分の上

下を問わず広く愛される花となったのです。

さて、新潟に来て驚いたのは、秋になると非常にたくさんの食用ギクが販売されていること、その量がまたすごくて、箱で売られていると言うことでした。私の家では食べませんが、新潟の人はそんなに食べるのでしょうか。

全国的に見ると、キクの花を食べるのは、東北地方と新潟県だけです。特に紫色のキクは、山形県と新潟県でのみ生産されています。

この紫色のキクは、新潟では「かきのもと」、長岡では「おもいのほか」、山形県では「もってのほか」と呼ばれていますが、区別がつかないほどよく似ています。山形大学の最近のDNAを比較した研究によると、これらは非常に近縁なものだそうです。どこが元かはわかりませんが、昔からふやされて、各地方で独自に進化

し、名づけられたのだと考えられます。

しかし、なぜキクの花を食べるようになったのでしょうか。はっきりしたことは分かりませんが、もともと薬用として渡来したこと、お酒に入れて飲む習慣があったこと、そのために何かの機会に花びらを食べたであろうことは、想像に難くありません。

江戸時代の「越後名寄」を調べてみると、葉や花を煮て、ザルにあげて、豆油に浸して食べる。黄色の花を飯に和えて、蒸すと、香りが良いとありました。

もっと調べてみるとはっきりとしたことは分かりませんが、昔は全国各地でキクの花が食べられていて、新潟や東北にその習慣が残ったのかなと考えています。(倉重祐二)



紫色の食用ギクは新潟県と山形県で生産される



観賞用に栽培されるイエギクも食用ギクと同じ仲間



販売される「かきのもと」には多数の系統がある



がくを取り除いて、花弁を湯がいて調理する



できあがった菊のおひたし。ポン酢などで味付けて食べる



イギリスの夏を代表する園展示会「ハンプトンコートフラワーショー」



ホガース氏の小型ギボウシのナショナルコレクション展示(ハンプトンコートフラワーショー)



ハンプトンコート/レスガーデンのランタナのナショナルコレクション



ウインザーグレートパーク、サビルガーデンのシャクナゲのナショナルコレクション



マーズ邸のキスゲ属(ヘメロカリス)のナショナルコレクション

日本植物園協会海外事情調査 イギリス ナショナル・プラント・コレクション

7月4日～7月12日まで、日本植物園協会のイギリスでの海外事情調査に隊長として参加しました。

今回の調査は、イギリスで行われている栽培されている植物を保全する仕組みである「ナショナルコレクション(National Plant Collections)」の視察を目的としたものです。

ナショナルコレクションは、イギリスで栽培される野生種や園芸植物を保存、育成、増殖、記録する制度で、プラントヘリテージ(Plant Heritage)という民間団体によって運営されています。分類群(属)や歴史的な背景等によって収集された植物を保有する植物園や大学、個人や特定の植物を専門に生産しているナーセリー、市町村など600以上がコレクションホルダーとして登録され、一般にもコレクションを公開しています。

ナショナルコレクションを参考にし、絶滅危惧植物を保全してきた実績を活かして、観賞園芸植物や薬用植物を中心とした有用植物の保全を行おうというのが、植物園

協会の日本版ナショナルコレクションの構想です。保全だけではなく、多くの植物園が保有する園芸植物などの価値が明らかになることで、保全の意義が高まり、一般にも植物や植物園をアピールすることにつながる効果も期待できると考えています。

イギリスでの調査では、ナショナルコレクションのコレクションホルダーが出演しているハンプトンコートフラワーショー、多くのコレクションを保有するイギリスを代表する植物園である王立キュー植物園、王立園芸協会のウィズレーガーデン、ローズムーアガーデン、その他にも個人所有のコレクションやレディング大学での講義、デヴォングループや本部スタッフとの会談も行い、ナショナルコレクションの実際を学ぶと共に、親交を深めました。

現在報告書を取りまとめているのですが、今回の調査の成果を日本の植物の保全システムの構築に活かしていければと考えています。(倉重祐二)



レディング大学での果樹のナショナルコレクションに関する講義



ナショナルコレクション・デヴォングループとの会談



20年余の友人、世界的に著名な植物研究家でウインザーグレートパークの園長であるマーク・フナガン氏と



王立園芸協会ローズムーアガーデンのバラ園



マーウッドヒルガーデンのチダケサシ属(アステル)のナショナルコレクション



アレン邸のジャスタデージーのナショナルコレクション